ギリシャ：アテネ市

１．観光省

＜アテネオリンピック・メインスタジアム＞

＜基本データ＞
アテネ市
　ギリシャの首都であり、現在の人口は約６５万人。世界で最も古い都市のひとつで、約３，４００年もの歴史がある。市内の各所には遺跡が埋まっており、再開発、地下鉄建設時などのたびに遺跡が出土し、遺跡発掘調査が行われるため、計画通りに開発が進まないことが多々ある。

アテネオリンピック
　１８９６年近代オリンピック最初の大会が行われた。その後ギリシャ王が、オリンピックは恒久的にギリシャで開催すべきとの主張から、４年ごとに行われるオリンピックの中間時にギリシャで大会が行われるようになり、１９０６年にその中間大会の第１回が開かれた。しかしその後、提唱したギリシャ王が暗殺されたため、中間大会は１回で終了した。２００４年には、１０８年ぶりに２度目となるアテネでのオリンピックが開催された。メイン会場はアテネオリンピック・スポーツ・コンプレックス（ＯＡＫＡ）が、現在管理運営を行っている。

調査目的

２０２０年に２度目の開催を控える東京に先んじ、２００４年に２度目の開催を経験したアテネオリンピックの開催準備、開催状況、開催後の施設利用状況や財政状況を調査する。アテネ市は五輪開催以後の財政状況が深刻であり、当事者を中心に反省点も踏まえて聴取し、東京開催に活かしていく。

調査結果

２００４年アテネオリンピック開催時に、エグゼクティブディレクターを務め、現在観光省次官である Yannis Pyrgiotis 氏と面会し、オリンピックの開催責任者としての経験を踏まえた有益な話を伺った。

＜観光省＞

開催時には、エグゼクティブディレクターとして、観光、環境、技術の点からアテネ市の有する機能を活かしていくことを心がけ、さらにすべての分野にわたり機能強化を図ったとのことである。

アテネ市は、２００４年のオリンピックの開催により、戸建てやアパートなどの住宅が増えた。また、市内路面電車、地下鉄等の交通機関、高速道路や新空港などの都市インフラの整備を進めた。一方で、予算には制約があるので緻密な財政プランを立てる必要があった。そのため、古い施設や公園などの再整備を中心とした整備を行った。例えば、競馬場は駐車場に活用する一方、１９０６年の施設を今回もフェンシング競技会場として活用した。また、古いプライベート飛行機用の滑走路もマラソン会場に活用した。オリンピック・リング・ロードも設置した。ゴミが不法投棄されて汚れてきた海岸も改修し、大きな海浜公園に整備した。

＜Pyrgiotis 氏より説明を受ける＞

一方で、大きな問題点にも直面したようだ。地下鉄を建設している時には、３００か所もの工事現場で、遺跡が出土し、それぞれの遺跡調査が必要となり、工期が大幅に遅れてしまった。そのため、オリンピック開催に間に合わ

ない箇所が発生し、自動車交通に頼らざる得なくなり、島部も都心も交通渋滞が頻発したことからスピードが出せないため、公害が一層増えてしまったようだ。

街のイメージアップに気を使い、外国人観光客からどのように見えているのかを考慮し、アテネ市内の観光名所の活用も図った。特にアテネ市のシンボルとも言えるアクロポリスの前の道路は、もとは車中心の道路であったが、オリンピック開催に向け、歩行者中心の道路に作り替えるなど、観光客に配慮した街づくりを行った。一方で、アクロポリス前に、アクロポリス新博物館を建設し、多くの観光客の入場を見込んだが、工事に時間がかかり、完成はオリンピック後の２００９年オープンとなってしまった。

＜アクロポリス前歩行者専用道路を走る＞

当初より、オリンピック開催後の大会施設の活用は図ってきたようだ。カヌー会場は後にイベント会場に活用し、テコンドー会場は会議場として活用されている。しかし、跡地利用について施設周辺住民からの合意がなかなか得られず時間がかかり、いまだに当初の計画通りには活用されていない施設も残っている。こうした点は、後日視察したロンドンとの比較では大きな違いがあると感じた。

＜Pyrgiotis 氏を囲んで＞

当初、アテネ市には既にオリンピック開催に必要な施設・インフラが整っているものと考えられていた。しかし、開催準備の過程で各種競技団体等から競技施設についての強い要望を受けた結果、当初計画を大きく上回る財政負担となった。それぞれの競技団体が、出場選手のパフォーマンスを最大限に発揮できる施設を望むのは自然なことである。しかし、そのことが採算

性など全体計画との調和を複雑にする要因となった。Pyrgiotis 氏からもこうした摩擦について十分に考慮すべきとの助言を頂いた。

開催にあたっては、競技者のパフォーマンスにも配慮が必要であるが、財政には限りがあり、オリンピック後に、どのようなタイプの、どの程度のキャパシティの施設が必要となるかについて入念に想定しておく必要がある。大会終了後に使用する見込みの少ない施設は仮設にするなど取捨選択が不可欠である。仮設会場は、一時的に費用がかかるが、開催後の維持費を考え、長期的スパンで考えると財政負担は軽くすむ。施設建設計画は、大会終了後のこともしっかり見据えて判断すべきであることを調査から改めて強く感じた。

大会準備時には、各方面からの多くの要求があり、アテネではその多くを受け入れてしまったため、今から考えると失敗してしまったとの反省が強くあるようだ。

他都市にはなるが、オリンピックのメインスタジアムは、現在ほとんど活用されていないと聞く。メインスタジアムはキャパシティが８万人収容と決まっているため、オリンピック開催後の活用を十分考える必要がある。アテネでも、メイン会場の周辺にも多くの施設を造ってしまったため、最寄駅からメインスタジアムまでのアクセスが大変悪く、大きな課題を残してしまった。

ホワイト・エレファント（無用の長物）を造ってはいけないし、バブルになってもいけないと何度も繰り返されていたことが印象的である。

オリンピックの開催に向けては、政府、地方自治体、オリンピック機関の役割分担が必要であり、また、各機関・組織との連携をうまくとる必要がある。そのため各機関・組織とのコーディネートが極めて重要になる。アテネでは、オリンピック準備委員会が実行委員会になったが、実行委員会がイニシアチブを取って、細かい事を調整して、解決策を国に提案するようにしたとのことであった。

＜メインスタジアム周辺では、多くの落書きが見られた＞

視察中、アテネ市民から興味深い話を伺った。多くのギリシャ人は、オリンピック関連施設の建設が遅れ、開催に間に合わず、オリンピックが成功するとは思っていなかった。しかし現実には、施設建設も間に合い、大会運営も成功したので、多くの国民は、やればできるという大きな自信を持った。しかし、その余韻もつかの間、オリンピック終了後、結局は何も残っていない現実に直面し、むしろ喪失感が大きくなり、更には、大会関連施設の維持、多くの都市インフラ整備のため、財政的負担だけが残され、アテネでオリンピックを開催

しない方が良かったのではという意見を言う国民が多くいるようだ。

アテネ市内には、２００４年オリンピックに関する様々なインフラが残されている。アテネ市中心部では、大会開場をつなぐ環状道路（リングロード）が整備されており、その主要幹線道路は片側２車線、３車線であるが、その内１車線分には青いラインが塗られている。これは、オリンピック開催時に、アテネ市内の道路が混雑していてもオリンピック関係者がスムーズに移動ができるようにと専用レーンを設けたとのことである。実際、オリンピック開催時はアテネ市内に交通渋滞が発生していたが、オリンピック競技には影響がなかったため、一定の成果を挙げたようだ。

＜オリンピック関係車両専用通行レーン＞

また、市内の中心部には、オリンピック開催に合わせてつくられた記念碑が残されており、他から移設した巨大なガラスのモニュメントも残されていた。大きなモニュメントであるため、オリンピック開催地であったことを強く印象付けるものであった。我々は、オリンピック開催調査のため訪問したので、意識して見ていたが、他の目的で訪れた観光客に対しても強く大きなアピール性を有しており、開催後の観光資源として活用できるものである。オリンピック開催後も、この場所でオリンピックが開かれたことを表す、象徴的なレガシーを残すことの必要性も感じた。

＜アテネ市内にあるガラスのモニュメント＞

オリンピックでは多数の競技が開催されるためにそれぞれ競技場を建設、整備される。しかし、そのほとんどは大会が終了するとその後の施設活用、維持管理が大きな課題となってくる。アテネでも、競技人口が多く、プロリーグのある種目の競技場であれば、活用される可能性が十分あるが、マイナー競技の場合は、大会後の施設活用が大きな課題となる。その象徴的な施設が野球場である。

オリンピック種目にあれば、当然その競技場を用意しなくてはならないわけ

であるが、ギリシャでは野球は全くと言っていいほど行われていない。そのため野球に対する知識、理解もほとんどない中で、本格的な野球のスタジアムを２面作ってしまった。作ったスタジアムも、ＩＯＣからの設計、企画などの詳細な資料を入手した上で建設したものの、出来上がったスタジアムは、外野とスタンドの間になぜか空白スペースがある、といった施設であった。野球という競技を知っていれば絶対に出来ない球場である。サッカー競技場では、グランドとスタンドの間にスペースが設けられているが、同じような施設が出来上がってしまったようだ。当然、オリンピック閉会後にはその施設は完全にお荷物になってしまった。現在、その野球場と、隣接しているソフトボール場、ホッケー場は、施設内はもちろん近くにも行けない状況で放置されていた。正にホワイトエレファントの象徴的施設であると感じた。

＜未使用のホッケー場等＞

＜未使用の野球場、ホッケー場等の地図＞